

阿蘇火山における地球化学的観測 Geochemical observation at Aso Volcano

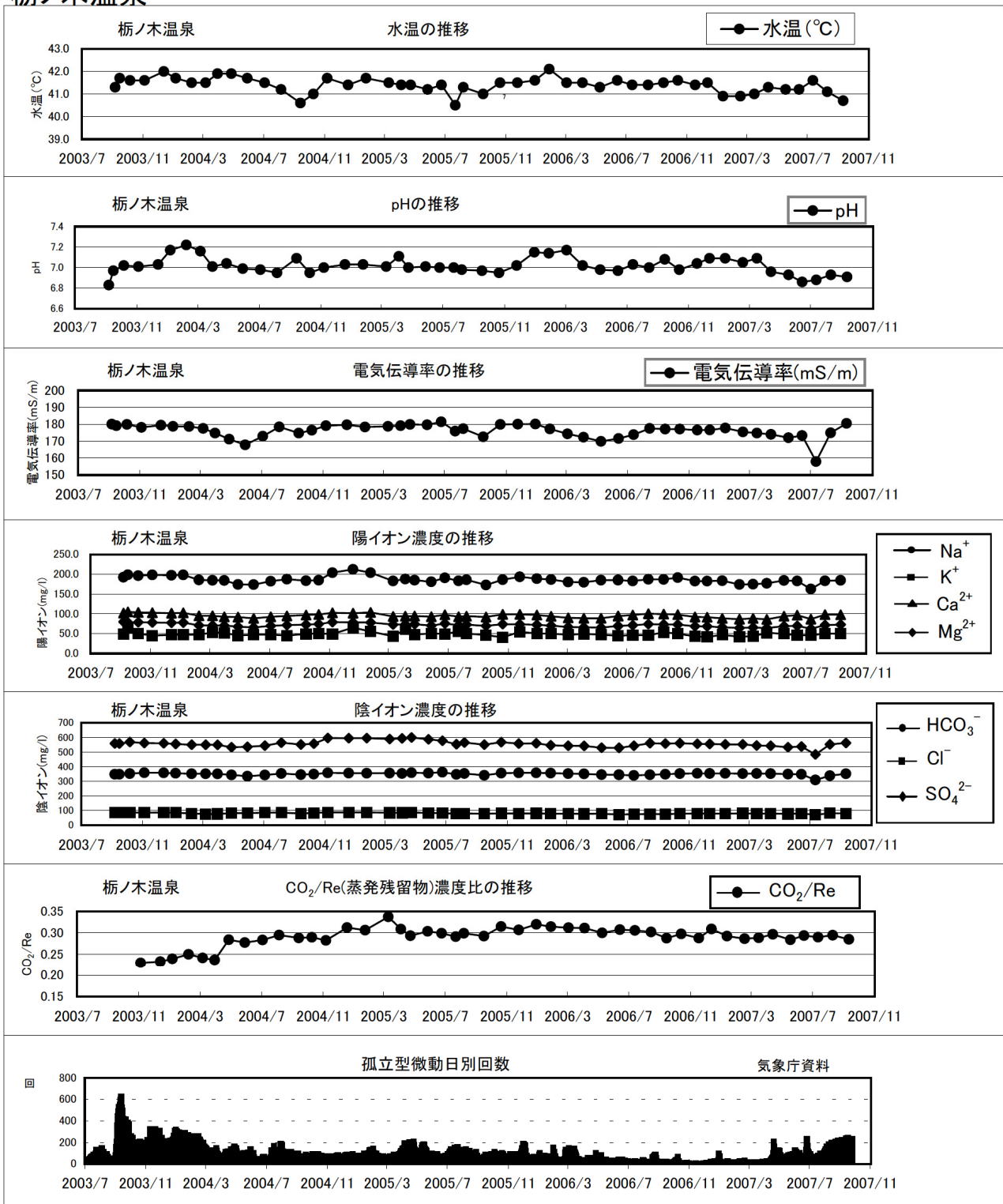
九州大学大学院理学研究院 地震火山観測研究センター
Institute of Seismology and Volcanology, Faculty of Sciences, Kyushu University

阿蘇火山では、2003年夏より火山活動が活発化し、2003年7月10日、2004年1月14日、2005年4月14日に、ごく小規模な噴火が確認されている。九州大学地震火山観測研究センターでは、栃ノ木温泉と垂玉温泉における温泉観測を行っており、その結果を報告する。

第1図と第2図に栃ノ木温泉と垂玉温泉の2003年9月以降の観測結果を示す。2007年9月には、中岳第一火口の南側火口壁で、赤熱現象が観測されている（気象庁阿蘇山測候所ほか）。また、孤立型微動回数も、やや増加傾向を示しているが、温泉の主要化学成分や二酸化炭素濃度には有意な変化は見られない。

栃ノ木温泉と垂玉温泉の溶存二酸化炭素相対濃度（二酸化炭素濃度／蒸発残留物濃度）は、2004年の夏以降、若干の変動はあるが、やや高いレベルを維持している。

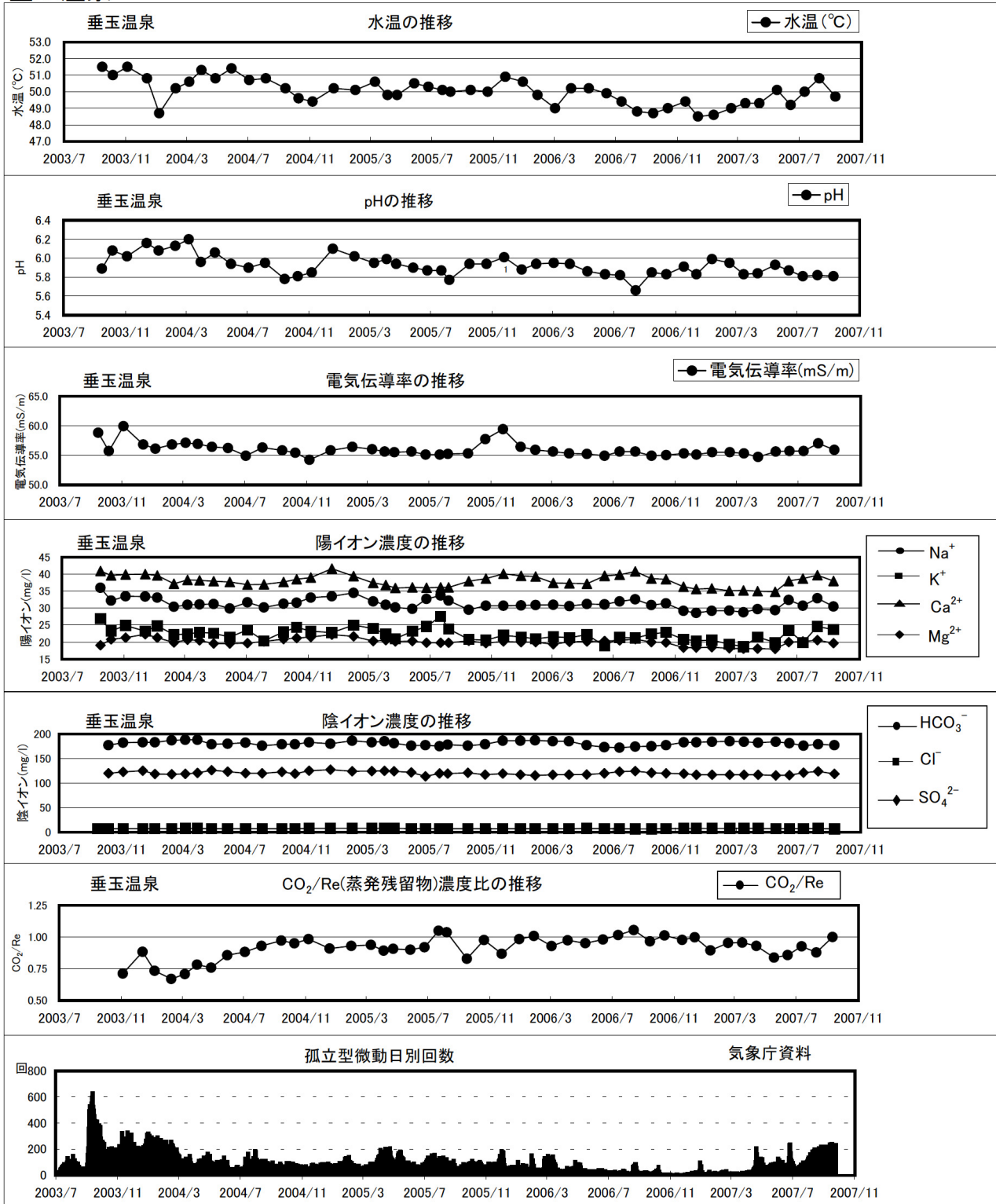
栃ノ木温泉



第1図 栃ノ木温泉小山旅館（平湯）の水温・pH・電気伝導率・主要化学成分濃度・CO₂/Re(蒸発残留物)濃度比の推移。孤立型微動日別回数は気象庁資料。

Fig.1 Changes in temperature, pH, electrical conductivity, main chemical component concentration and CO₂/Re (evaporation residue) concentration ratio at Oyama Japanese Inn (Hirayu) of the Tochinoki hot-spring. Daily number of the isolated tremor is from the JMA.

垂玉温泉



第2図 垂玉温泉山口旅館（本湯）の水温・pH・電気伝導率・主要化学成分濃度・CO₂/Re(蒸発残留物)濃度比の推移。孤立型微動日別回数は気象庁資料。

Fig.2 Changes in temperature, pH, electrical conductivity, main chemical component concentration and CO₂/Re (evaporation residue) concentration ratio at Yamaguchi Japanese Inn (Motoyu) of the Tarutama hot-spring. Daily number of the isolated tremor is from the JMA.